



大会概要

2024年 SUPER GTシリーズ 第4戦

大会名称

2024 AUTOBACS SUPER GT Round4 FUJI GT 350km RACE

開催日時

8月3日 土曜(予選) 8月4日 日曜(決勝)

開催サーキット

富士スピードウェイ (1周: 4.563km)

所在地: 静岡県駿東郡小山町中日向694

同時開催レース

FIA-F4選手権シリーズ第5戦・第6戦

ポルシェ カレラカップ ジャパン 2024 第8戦・第9戦ミシュランチャレンジ

主催

富士スピードウェイ株式会社/FISCOクラブ (FISCO-C) /株式会社GTアソシエーション

公認

国際自動車連盟 (FIA)

一般社団法人 日本自動車連盟 (JAF)

認定

株式会社GTアソシエーション

後援

経済産業省/国土交通省/自由民主党モータースポーツ振興議員連盟/静岡県小山町/御殿場市/裾野市/
公益社団法人静岡県観光協会/小山町観光協会/一般社団法人御殿場市観光協会/
一般社団法人裾野市観光協会/静岡朝日テレビ/小山町モータースポーツ協会の



◆ 参戦体制

■ ドライバー



片山 義章
YOSHIAKI KATAYAMA

生年月日 1993年11月13日
出身地 愛知県
身長 168cm
体重 69.3kg
血液型 RH+O



ロベルト メリ ムンタン
ROBERTO MERHI MUNTAN

生年月日 1991年3月22日
出身地 スペイン
身長 178cm
体重 70kg
血液型 RH+O

■ 代表

古場 博之

■ 監督

小倉 啓悟

■ スタッフ

チーフエンジニア
チーフメカニック

Mattia Oselladore
片岡 恵人

■ スポンサー

アスカ株式会社

朝日金属株式会社

C I S株式会社

株式会社安藤・間

ザーレン・コーポレーション株式会社

城東電機株式会社

T O N E株式会社

ウエスタンデジタル合同会社

D O B O Tジャパン株式会社

株式会社リブレ

ニチアス株式会社

見田工作株式会社

エバー株式会社

愛知電線株式会社

コスモ開発株式会社

笹原金型株式会社

岡田金属株式会社

有限会社大和工業

株式会社ジョイフル設備

有限会社ます徳

エクセルフィルム株式会社

アクセル有限会社

M I D T O W N B B Q

OIRC

カトー機械株式会社

ARMS株式会社

青山エレベーター株式会社

RAIDEN

株式会社デジテックエイチピー

株式会社ジョイフル設備

株式会社マイティミズタニ

株式会社アクトライズ

医療法人社団ヒロデンタルクリニック

高新自動車学校

◆ 予 選

天候 晴れ

コース状況 ドライ

気温 33℃ (GT300クラスQ1開始時)

路面温度 54℃ (GT300クラスQ1開始時)

予選開始 14時30分 (GT300クラスQ1-A組開始)



VELOREX (Team LeMans)は、昨年に引き続き、SUPER GT GT300クラスに参戦する。4年目となる今シーズンは、マシンをAudi R8 LMSからFERRARI 296 GT3に変更し、マシン名を「UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI」とした。一方、ドライバーは昨年同様、第1ドライバーに片山義章、第2ドライバーにロベルト・メリ・ムンタンを起用。チーム体制も継続し、2023シーズンを上回る活躍を目指す。タイヤは、これまでどおりヨコハマタイヤを装着する。

今シーズンのSUPER GTでは予選方式が変更され、Q1、Q2のタイム合算方式が採用される。GT300クラスの場合、Q1はグループA、グループBの2組に分かれてそれぞれ10分間のQ1を行ない、各組の上位8台がQ2グループ1 (Upper 16th)、9位以下がQ2グループ2 (Lower 17th)に分かれて8分間のQ2に挑む。予選順位はQ1、Q2の合算タイムで決まり、上位12位は、Q2グループ1へ出走した車両の上位12位までの順、21位以下はQ2グループ2の5番手タイム以下の順。13位から20位については、Q2グループ1の下位4台と、Q2グループ2の上位4台の合算タイムを比較し、タイム順にポジションを入れ替える。なお、Q1、Q2、決勝スタートは1セットのドライタイヤを使用しなければならず、昨シーズンにも増してタイヤのマネージメントが重要になる。

(※今大会はコンディションの公平性を保つため、Q2ベストタイムで予選順位を決定)

#6 UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI

予選結果：11位 (予選Q2ベストタイム：1分38秒643 / ロベルト選手：1分38秒420 / 片山選手：1分38秒643)

予選日は路面温度が50℃を超える酷暑の中、9時00分からSUPER GT第4戦の公式練習がスタートした。

鈴鹿サーキットで開催された第3戦で表彰台を獲得したチームは、それ以上の成績を目指すべくタイヤ選定に重点を置いてプログラムを進めた。

予選は14時30分から始まり、UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARIはQ1グループAにロベルトが出走。フリー走行で3番手につけた好調さを維持し3周目に1分38秒420をマーク。グループBの4番手タイムでQ2グループ1 (Upper 16th) への進出を決める。

15時40分からのQ2グループ1では、片山が3周目に1分38秒643をマーク。タイムアップを狙った翌周に、セクター1,2共にベストを更新するもダンロップコーナーでブレーキ関係のトラブルによりコースアウト。これにより決勝レースは11番手、6列目からのスタートとなった。

◆ 決 勝

天候 曇り

コース状況 ドライ

気温 35℃ (スタート時)

路面温度 56℃ (スタート時)

決勝レース開始 14時30分

(正式スタート時刻 13時37分04秒)

予定走行時間 350km

(正式フィニッシュ時刻 16時37分47秒)



#6 UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI (片山&ロベルト選手)

決勝結果：9位 (所要時間：70週消化/ベストラップ：1分39秒890=ロベルト選手)

第4戦の予選、決勝は夏休みということもあり、予選日に20600人、決勝日に31600人と、合計52200人(前年比136.7%増)もの観客が富士スピードウェイに詰めかけた。熱中症対策が必要なほどの暑さの中、13時から20分間のフリー走行が開始される頃にはすでに路面温度が50℃を超える状況となった。

決勝スタートは予定どおり14時30分。交通機動隊を先導としたパレードラップが始まり、続く1周のフォーメーションラップのあと、14時37分に正式なスタートが切られた。

11番手からスタートした片山はいつもの好ダッシュを見せたが、前方が混沌としており、13コーナーでオーバーテイクを試みたタイミングで、さらにその前方で急減速したマシンがいたため、追突が避けられなかった。競技長から黒白旗が振られたが、レーシングアクシデントの判断でペナルティは出されなかった。マシンのダメージは走行には大きな影響はなく、片山は11番手から前をいくマシンと抜きつ、抜かれつバトルを展開しながら積極果敢なレースを展開。

途中、停止車両排除のためにFCYが出され、そのFCY解除のタイミングで27周目にピットイン。タイヤ4本を交換し、ロベルトに交代した。

17番手でレースに復帰したロベルトは、新品タイヤを温めると自己ベストラップを叩き出しながら、激しく前をいくマシンを追走し、次々オーバーテイク。

31周目に16番手、33周目に15番手、各チームがピット作業を終えた段階の44周目には12番手へと次第にポジションをアップ。その後も追撃は止まず、55周目には11番手、58周目には上位マシンにドライブスルーペナルティが出されたため、10番手へと浮上。59周目には9番手、そして60周目には8番手まで浮上した。

しかしラスト10周、遅いタイミングで新品タイヤに交換してかなり早いペースで追い上げるマシンが迫り、ロベルトも抜かれたら抜き返すといった激しい攻防を続けたが、最後はブロックしきれずポジションを明け渡し、9位でチェッカー。

シリーズポイントでは2点加算し、合計12点。シリーズランキング10位でシリーズ後半戦へと折り返すこととなった。

片山 義章 選手のコメント

フリー走行からマシンのバランスは良く、常にトップ3のタイムはマークできる状況だったのですが、予選アタックラップの最終セクターでトラブルが出てコースアウト。その週のセクター1、セクター2のタイムと、前の週のセクター3のタイムを合計して想定すると、ポールポジションも見えていたタイムだったと思います。その悔しさからメンタルを立て直すのが厳しいくらい、本当に悔しい予選でした。

決勝のスタートはいつもどおり上手く決まって、良い走り出しだったのですが、前が渋滞して抜きどころがなく、自分がオーバーテイクを試みたタイミングで運悪く前方で急減速したマシンがいた為に、前のマシンも急減速。

どうしようもなく前のマシンに追突してしまいました。気を取り直してレースを進めましたが、マシンに大きなダメージはなく、その後のペースは悪くなかったと思います。ただ富士はストレートが長いサーキットなのですが、今回は我々のマシンにストレートでの速さが無く、厳しい戦いを強いられたのも事実です。想定していた作戦でのミニマムの周回数でピットに戻り、ロベルトと交代。彼は今回も本当に頑張って素晴らしいパフォーマンスを見せてくれました。

チームも大きなミスはなく、逆に他の有力チームも大きなミスがなかったことで、表彰台までは届きませんでしたが、コンスタントなレースがお見せできたと思います。次の鈴鹿は得意なサーキットのひとつでもありますし、優勝を狙って頑張りたいと思います。

ロベルト・メリ・ムンタン 選手のコメント

フリー走行から予選、決勝を含めてチームは本当に毎セッション、素晴らしい仕事をしてくれました。

予選でのトラブルさえなければ、表彰台は獲得できたと思います。

マシンのバランスはフリー走行ではややアンダーステアが強かったものの、セッションが進むにつれて満足できる状態になっていきましたし、今回もフルプッシュできたレースでした。今日の9位は、2点加算できたという意味で、シリーズ展開には価値があると信じています。

監督コメント

この週末も、結果的にはドライバーの頑張りによってポイント獲得ができたレースだったと思います。

チームとしては想定外のトラブルが予選で出たことを重視して、フェラーリ側とも情報共有して原因を確定し、2度とトラブルが発生しないよう対策して後半戦に臨みます。

今回のレースは酷暑になることが予想され、タイヤのチョイスが重要になるレースだったので、フリー走行はそのあたりを重視して戦略を組みました。レース中、FCYが出たタイミングで我々もピットインを考えていたのですが、タイミング的に厳しく、FCY明けにピットに入りました。優勝車両はFCYが出される直前にピットインというドンピシャのタイミングだったので圧倒的に有利になり、自分たちには悔しいレースではありませんでした。しかし我々のドライバーにもチームにも大きなミスはなく、次のレースは土曜日の走り出しから常にトップ3圏内を維持し、優勝を狙うレースにしたいと思います。自分たち VELOREX はチャンピオンを狙う意味でも絶対に優勝が欲しいのです。これからも応援よろしくお願ひします。今日は本当にありがとうございました。



WestCove

BLUEGRASS

UNI-ROBO

DOBOT

zahren

TONE



KOHSHIN DRIVING SCHOOL
SAFE DRIVE
高新自動車学校

EVER CORPORATION



ニチアス

METAL RECOVERY
OKADA KINZOKU

AOYAMA ELEVATOR

カトー機械株式会社

Digi-Tec INTECNO

MAITY
MAITY MIDTOWN ENGINEERING SYSTEM

MIDTOWN BBQ
www.midtown-bbq.com

Western Digital.

The CELLAR
G O T E M B A

ESTATE SALE
SUPREMACY

JOTO DIRECT

見田工作

ASAHI 朝日金属株式会社

RiBLE

II&A
Human & ARMS

SASAHARA

DAIWA

XPEL
J A P A N

ActRizz

安藤ハザマ
ヒロ デンタル クリニック

安藤ハザマ
HAZAMA ANDO CORPORATION

愛知電線

Sponsor introduction

VELOREX
Fueled by Ambition